

製品名: アルギナーゼ II ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07112**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	38kDa

抗原情報

遺伝子名	ARG2
別名	ARG2; Arginase-2; mitochondrial; Kidney-type arginase; Non-hepatic arginase; Type II arginase
遺伝子 ID	384.0
SwissProt ID	P78540
免疫原	抗血清はヒト ARG2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 305-354

背景

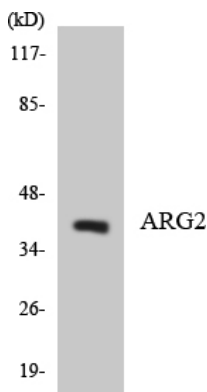
アルギナーゼは、アルギニンをオルニチンと尿素に加水分解する触媒作用を担う。哺乳類アルギナーゼには少なくとも 2つのアイソ

フォーム (I型とII型) が存在し、組織分布、細胞内局在、免疫学的交差反応性、および生理学的機能がそれぞれ異なる。この遺伝子によってコードされるII型アイソフォームはミトコンドリアに局在し、肝外組織、特に腎臓で発現する。このアイソフォームの生理学的役割は十分に解明されていないが、一酸化窒素およびポリアミン代謝に関与していると考えられている。II型遺伝子の転写バリエーションは、ポリアデニル化部位の置換によって生じることが報告されている。 [RefSeq 提供、2008年7月]触媒活性: L-アルギニン + H₂O = L-オルニチン + 尿素。補因子: サブユニットあたり2個のマンガニオンを結合する。機能: 尿素回路外アルギニン代謝の調節、および一酸化窒素合成のダウンレギュレーションに役割を果たす可能性がある。肝外アルギナーゼは、NO合成酵素に対するL-アルギニンの生物学的利用能を調節する機能を持つ。NO合成酵素は陰茎海綿体平滑筋、陰核海綿体、および膣に存在するため、アルギナーゼIIは男性と女性の両方の性的興奮に役割を果たす。したがって、男性と女性の性的興奮障害の治療の潜在的なターゲットである。オンライン情報: アルギナーゼ入口;経路: 窒素代謝; 尿素回路; L-アルギニンからのL-オルニチンと尿素: ステップ 1/1。類似性: アルギナーゼファミリーに属します。サブユニット: ホモトリマー。組織特異性: 腎臓と前立腺で最も強く発現し、脳、骨格筋、胎盤、肺、乳腺、マクロファージ、子宮、精巣、腸ではそれほど強く発現していませんが、肝臓、心臓、膵臓では明らかに強く発現していません。

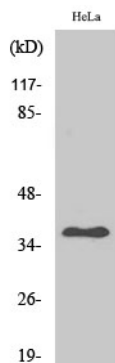
研究分野

アルギニンとプロリンの代謝;

画像データ



ARG2 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



アルギナーゼIIポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析